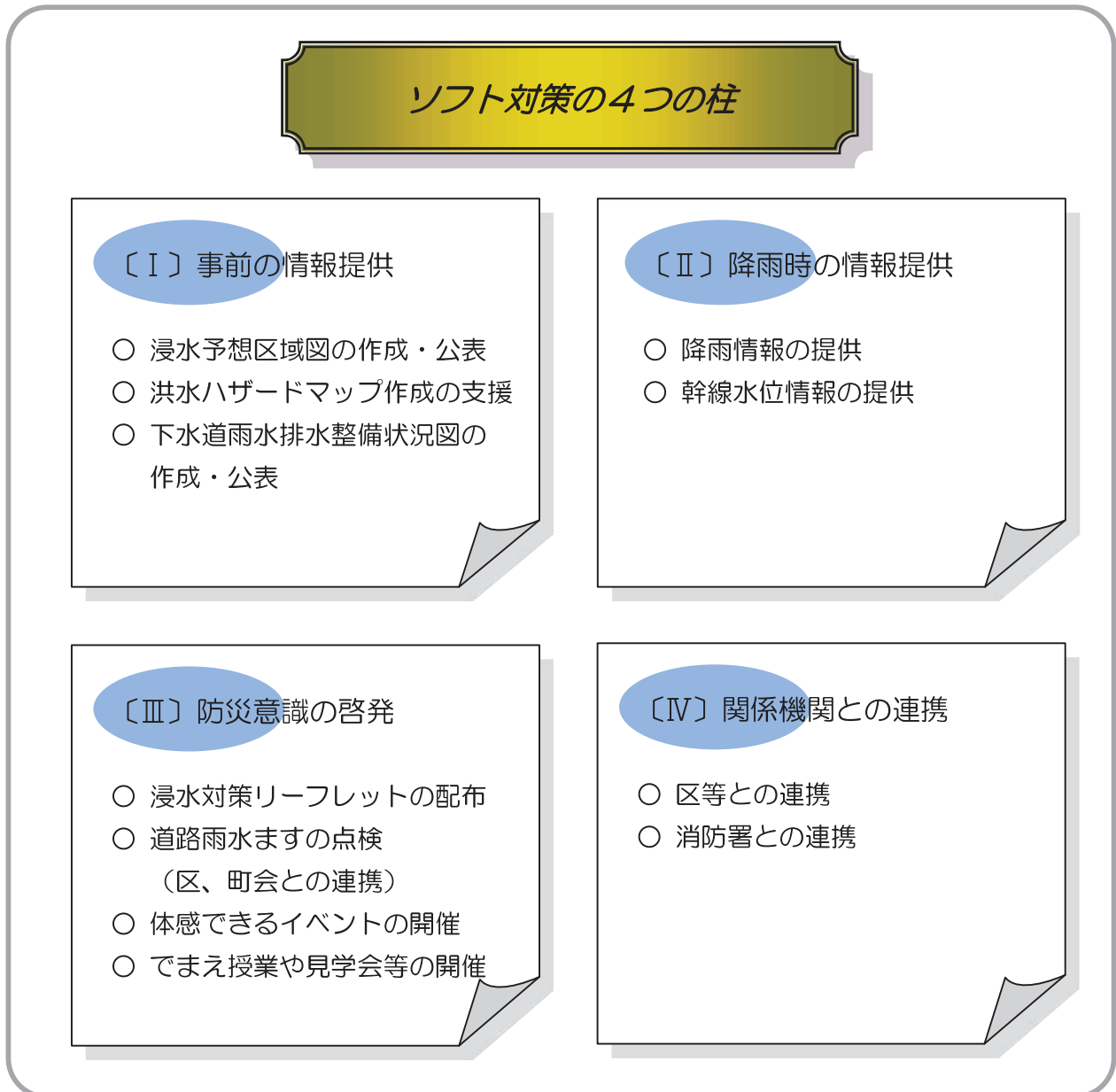


2 ソフト対策（リスクコミュニケーションの充実）

ハード対策として施設整備を進める一方で、お客さま自らが浸水への備えを充実し、被害を最小限にする取組が重要である。

そこで、新クイックプランは、事前の情報提供や降雨時の情報提供などのソフト対策を充実させる。対策は、「事前の情報提供」、「降雨時の情報提供」、「防災意識の啓発」、「関係機関との連携」の4つの柱（図3-3参照）とし、以下に示す取組を実施していく。

図3-3 ソフト対策の4つの柱



(1) 事前の情報提供

① 浸水予想区域図の作成・公表

〔目的〕

- 浸水の危険性をお客さまや防災関係者に事前に周知
- 区が作成する洪水ハザードマップ作成の支援

〔これまでの作成・公表経過〕

- 5河川流域の浸水予想区域図を河川管理者と連携し、作成・公表（図3-4参照）
平成13年8月 神田川流域（図3-5参照）
平成15年5月 隅田川・新河岸川流域、石神井川・白子川流域
平成16年5月 城南地区河川流域、江東内部河川流域
- ※ 浸水予想区域図は、都関係局（下水道局、建設局など）や関係区にて閲覧可能

図3-4 これまでに作成・公表した浸水予想区域図のエリア

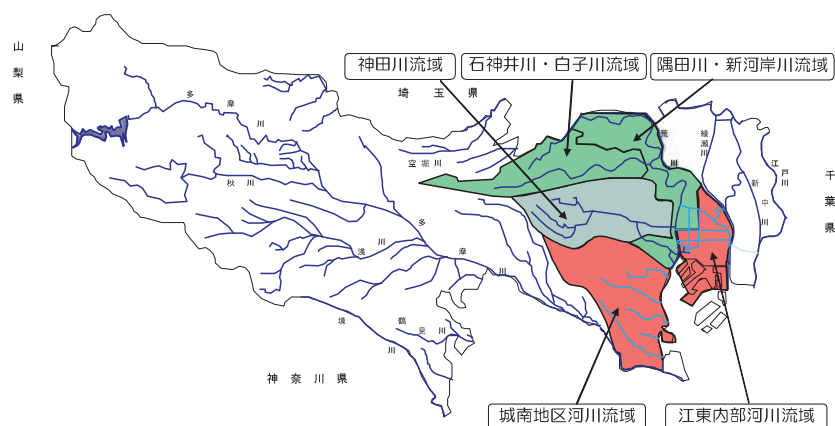


図3-5 神田川流域の浸水予想区域図



- 浸水予想区域図の作成に東海豪雨（総雨量 589 mm・時間最大雨量 114 mm）を対象とした理由
 - ・実績降雨である。（お客さまが認識しやすい。）
 - ・近年 100 mm以上の降雨が全国的に発生している。
 - ・東京（名古屋と同じ太平洋側）でも東海豪雨規模の降雨が発生する可能性がある。
 - ・現在の整備水準レベルである 50 mm降雨を大幅に超える豪雨であり、ハード対策としての施設整備は、今後とも長期間を要し、現状においては浸水に対する自助努力が重要であるため。

〔これからの取組内容〕

- 野川流域の浸水予想区域図を作成・公表（平成18年度まで）

② 洪水ハザードマップ作成の支援

〔目的〕

- 浸水予想区域図の作成主体（河川管理者および下水道管理者）として、関係区の洪水ハザードマップ作成を支援

〔洪水ハザードマップとは〕

- 洪水ハザードマップは、浸水予想区域や浸水深を示した浸水予想区域図を基に、避難場所や避難ルートなどを記載したもの。
- 洪水ハザードマップにより、避難行動の円滑化が期待できる。

〔洪水ハザードマップの作成・公表状況〕

表3-1 洪水ハザードマップの作成・公表状況

作成者	対象河川流域	作成者	対象河川流域
千代田区	神田川、隅田川流域	杉並区	神田川流域
新宿区	神田川、隅田川流域	板橋区	新河岸川、白子川流域
文京区	神田川、隅田川流域	練馬区	石神井川、白子川、神田川流域
中野区	神田川流域	平成16年6月現在 7区で公表済み	

〔これからの取組内容〕

- 引き続き、関係区の洪水ハザードマップ作成を支援

③ 下水道雨水排水整備状況図の作成・公表

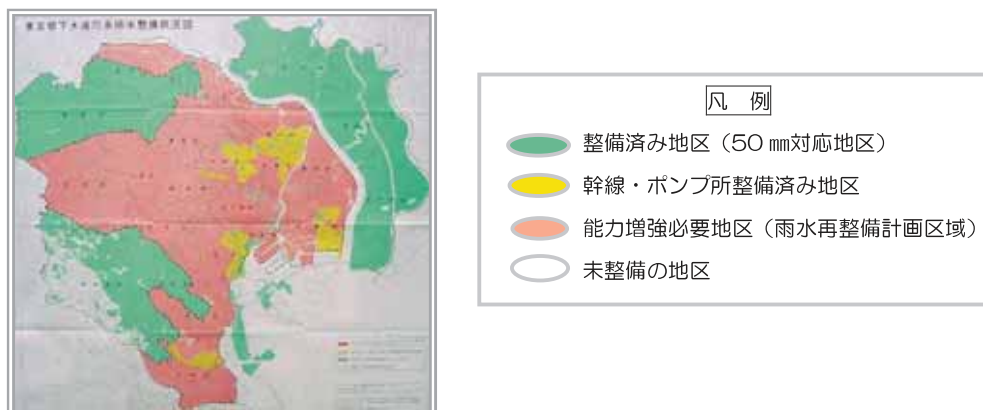
〔目的〕

- 下水道の雨水整備状況をお客さまや関係機関に公表

〔下水道雨水排水整備状況図とは〕

- 1時間50mmの降雨（概ね3年に1回程度発生する確率）への下水道の整備状況を図示したもの。（図3-6参照）

図3-6 下水道雨水排水整備状況図



〔これまでの取組内容〕

- 平成12年度に、平成11年度末までの下水道雨水排水整備状況を公表

〔これからの取組内容〕

- 下水道雨水排水整備状況図を更新し、お客さまや関係機関に公表（平成16年度中）